令和8年3月17日発行

園の輪 そののわ No.192

学校法人 甲子園学院

甲子園学院小学校修学旅行（令和8年2月11日～14日）

CONTENTS

〈校祖73回忌　追悼式〉……2～3
追悼の辞
甲子園学院長　久米 知子
記念講演
児童文学作家　くすのき しげのり
「一人ひとりがみんなたいせつ
～未来へ向かってすこやかに～」

〈学校園だより〉……4～9
幼稚園　小学校　中･高校　短大　大学

〈学院トピックス〉……10
学院生の活躍

校祖七十三回忌 追悼式

令和八年三月三日、午前十時から甲子園学院高等学校体育館において、校祖第七十三回忌・前学院長十二回忌が厳粛に挙行されました。祭壇には、校祖先生と久米利男前学院長先生のご霊位とご尊影並びに合祀者の方のご霊位とご遺影の前に十六基の供花、お供えが捧げられ、学院長が追悼の辞を述べました。その後、ご遺族・ご来賓・教職員並びに各学校園の学院生代表、保護者、卒業生が献花し、追悼歌・学院歌を斉唱しました。

追悼の辞

春の訪れがほのかに感じられる桃の節句のきょう三月三日は、校祖先生ご逝去の年から七十二回目の祥月ご命日に当たります。

学院はこの日を、校祖先生並びに久米利男前学院長先生のご遺徳を偲び、併せて学院関係物故者の御霊を祀る「追悼の日」と定め、最重要行事として追悼式を毎年厳粛に執り行っております。

令和に入ってからは本日合祀の鈴木崇由氏を含め十名に上る教職員と一名の卒業生を校祖先生、前学院長先生の御許にお送り致しました。この十一名の方はどなたも学院とのご縁が深く、私も良く存じ上げている方ばかりです。特に教職員の方々は各学校園や事務局でそれぞれに重責を担われてきた方ばかりで、私も追悼式でご紹介する度に寂しい思いを禁じ得ませんでした。

特に昨年は前学院長先生と二人三脚で学院の発展に力を尽くして来た久米多香子特別顧問を合祀し、そして今年度は鈴木崇由元会計課長を合祀する運びとなりました。

元会計課長
鈴木崇由 氏

鈴木崇由氏は昭和三十九年に大阪市立大学商学部を卒業され、三和銀行に入行、様々な部署を経て、平成七年三月に本学院に会計課長として着任されました。係数に強い専門知識を生かし、当時の久米多香子事務局長の片腕として財務からの切り口で学院の運営に尽力し、平成三十年九月に退職されました。

その後は近隣の大学で、ご自身が関心を抱いておられた歴史学等の聴講や美術展などにも足を運んで学びを深め、追悼式にも度々参列してくださいました。今でも「鈴木でございます」と静かに私の執務室に入って来られるような気がいたします。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて今年は午年に当たります。午年は動乱の年になると言われますが、その予兆は昨年あたりからあったように思います。それは悪い出来事のみを意味するのではなく、たとえば昨年の高市早苗総理大臣の誕生は、日本憲政史上初の女性総理という快挙でありました。

平成二十二年のことになりますが、高市総理に学院の中高でご講演を頂いたことがございました。勿論その時は国会議員としてお招きした訳ですが、女性の活躍に関しての非常に有意義なお話を、ご自身の経験談も交えながら中高生に熱く語ってくださったお姿が思い出されます。大変魅力に富んだお人柄で、その方が十六年の時を経て日本国の総理にまで昇り詰められたことは、誠に感慨深いものがあります。そして今後も一層のリーダーシップを発揮され我が国を導いてくださるものと期待しております。

学院は創立以来、良妻賢母の育成に力を注いで参りましたが、今や女性がガラスの天井を突き破り、総理大臣になり一国の舵とりを担う時代です。私たちも、これまで以上に男女と言わず社会で幅広く活躍出来る人材を育てていく必要性を強く感じております。

さて私は本年の新年互礼会で「それぞれがそれぞれの立場で役割を全うするように」と話しました。人間は一人では何も出来ません。万能な者もおりません。だからこそ一人ひとりがその役割を責任持って実行することによって、円滑な組織運営が可能になるのです。

「黽勉努力」の姿勢と「至誠一貫」の気持ちでそれぞれが自己の責務を全うし、それを「和衷協同」の精神で協力し、助け合う。学院の教職員全員が校訓三綱領の精神に則った働きをして欲しいとさらに希望しております。

その精神の下では私利私欲などが入り込む余地はなく、校祖先生は、どんな困難にも屈せず、そして真摯に取り組まれ、まさに建学の精神を自ら実践された先駆者でありました。あれから時代は変わり、校祖先生のおられた当時とは人々の意識も社会構造も大きく異なりますが、私たちはその精神を受け継いでいかなくてはなりません。今日、追悼式を迎えるに当たり、今一度、校祖先生が遺され、前学院長先生と特別顧問先生が紡いで来られた学院の精神に立ち戻る必要があります。

現在、私学経営は大変厳しい時代を迎えています。この難局を乗り切るにはどうすれば良いか、やはり社会に通用する人材を地道に育て世に送り出し信頼を得る以外に方法はないと思います。

如何に立派な校舎や設備を作っても、またどれだけ派手に宣伝しても中身が伴わなければ逆効果でしかありません。おカネさえかければ良い教育が出来る訳ではなく、何より教育に対する強い愛情と ←

追悼式記念講演要旨

一人ひとりがみんなたいせつ

～未来へ向かってすこやかに～

児童文学作家　くすのき　しげのり

○いい作品を読むことは心の窓を開くこと

子どもが読めば子どもの心に響き、大人が読めば大人の心に響く「物語る力のある作品」をめざして創作をしています。「想像する力」「共感する力」で作品の世界は広がります。本を読むことには様々な目的があり、多くの効果があるので、まず作品を楽しむことを忘れないでほしいです。

今ＩＣＴ教育やデジタル化が進んでいるからこそ、紙の本を手にとって紙の本を読む楽しさを味わってほしいと思います。紙の重さ、手ざわり、質感、匂い、ページをめくる音など五感を使って読書を楽しむという素敵な時間を、学校にいる間に体験をして欲しいと思います。

○一人ひとりが　みんなたいせつ

『いいな「じぶん」！』『おこだでませんように』より

一人ひとりがたいせつな存在であり、一人ひとりが輝きながら生きています。私たちは相手の心の動きや考えについて、「わかっているつもりで、実はわかっていないことがあるのだ」ということをわかっていなければいけません。キャリアを重ねると見通しやできることが増えます。それも大事ですが、何か気がついていないことがあるのではないか、見落としてないかという視点を必ずもっておくことが大切です。

○一人ひとりが　輝くために

『わすれもの　とどけます』より

・「想像する力」「共感する力」の大切さ

友達が悩んでいたら話を聞く。困っていたらできることで助ける。自分の思いを勇気を持って伝える。そして悪いと思ったら素直に謝る。当たり前のようですが、なかなかできないことです。皆さんにはこういうことができるようになりたいなと思ってもらえたらと思います。今、教育現場ではコミュケーション力の大切さが言われています。そこでは思いや考えを伝える力の育成に目が行きがちですが、相手の心を察する力、慮る力、推し量る力、思いやる力を併せて身につけてほしいと思います。

教員を目指している学生には、子どもと向き合う中で、子どもの言動の背景や家族の願いを察することができるようになってほしいと言っています。例えば子どもが寄ってくる中、一人離れている子がいたら、その子のことを一番に考えられる教員になってほしい。それは「想像する力」「共感する力」があってできることです。

将来、何になりたいのか（職業）、と子どもに問うだけでなく、将来、どんな人になりたいのか（生き方）も問う必要があるのではないでしょうか。「どんな人になりたいのか」と問うと、子どもは、「親切な人、優しい人、友達思いの人、お母さんやお父さんみたいな人、先生みたいな人」と答えます。皆さんには「職業と生き方」を組み合わせた「夢や志」を持ってほしいです。それは仕事に就くことが、資格を取ることが、ゴールではなくスタートになるからです。また私たち大人は、子どもの環境を作っていると同時に、私たち自身が環境であるということを忘れてはいけません。

○「あなたの一日が世界を変える」ということ

私たち一人ひとりが、心豊かに生きるためには、今日という一日をたいせつに生きるということが大切です。世界で活躍するということは、例えばオリンピックに出るといったようなことばかりではありません。世界はどこか遠くにあるものではなく、今いる私たちのこの空間も世界の中の一つであり、そして今、私たちがしていることや言っていることは必ず世界とつながっている。日本にいても、外国にいても、今このとき、この一瞬、一日一日を大切にするということ、それは、今からできる、一人でできる、誰でもできる大きな社会貢献であるということを、忘れないでほしいと思います。

○一人ひとりが自分の人生をたいせつに生きる

『のら猫のかみさま』より

皆さんには、皆さんのことをなによりも 大切に思い、皆さんのことを守り、支えてくれる家族や先生方がいます。皆さんが、歴史と伝統ある甲子園学院で学んでいること、そして甲子園学院で学んだことと誇りを胸に、未来へ向って笑顔で、すこやかに過ごすことを願っています。皆さんの人生に、皆さんの周りにたくさんの笑顔がありますように。

熱意を持った教職員が不可欠であるのは当然です。そして、これまでに物故された学院関係者お一人お一人のお陰で、現在の学院があることも忘れてはなりません。

私が冒頭にこれまでの合祀者について触れましたのもそのような意味を含んでおります。しかし私たちは日常の業務に忙殺され、つい先人への感謝の心を忘れてしまうことが多いのも事実です。

それだけにこの追悼式は、初心に返って、校祖先生や前学院長先生は勿論のこと、亡き恩師や先輩、上司や同僚だった方々を偲び、その生前のご活躍や学院に対するご貢献に感謝する場であり、それ故学院では最も重要な行事と位置付けられているのです。

折しも今年は昭和元年から起算して満百年の節目の年に当たります。幾多の先人の叡智と努力に感謝の念を持ち続けること、学院にあっては来る九十周年に向けて更なる発展を誓う機会とすることを希みます。その精神を忘れない限り、学院は存続し、発展致します。

校祖先生、前学院長先生、そして物故されし幾多の御霊の御前に、改めてこの気持ちを披歴し、一同、力を合わせて進むことをお誓い申し上げ、謹んで追悼の辞といたします。

令和八年三月三日

甲子園学院長

久　米　知　子

郵便ごっこ

三学期になると職員室前にポスト、二階の廊下に「甲子園学院郵便局」が設置されます。あれあれ？これは何だと興味津々の子どもたち。手紙を送るときの約束を担任から聞いた後、手紙を書き、ポストに投函します。郵便屋さんは年長児です。ポストに入れた手紙が受取人に届くまでの流れについて、絵本を見ながら確認した後は、いよいよ配達。実際に仕分けをして消印を押し、大切な手紙をクラスに届けます。いざ配達となると、一人で出発するだけでもドキドキワクワク。お届け先のクラスに行くと大きな声で「郵便配達に来ました。どうぞ」と届けます。「ありがとう」「ご苦労様」などと感謝の言葉を沢山もらい、仕事を終えた達成感に満ち溢れて戻ります。手紙を届けてもらったクラスの子どももとても嬉しそうです。最近、年賀状や手紙を出したり、もらったりする事が少なくなりましたが、自分宛の手紙を手にすると幸せな気持ちになれるようです。

人形劇　一月十五日

人形劇団「クラルテ」による人形劇を全園児がホールで鑑賞しました。一つ目の演目は「ぞうくんのさんぽ」です。初めに出て来るはずのぞうくんがなかなか姿を現さず、舞台周辺を見渡す子どもたち。しばらくして箱の中から出てきたのは四角い段ボール紙です。劇団員さんがハサミを巧みに使い、切ったダンボール紙を組み立てると、あっという間にお話に登場するぞうくんやかばくんなどの動物が出来上がり、大きな歓声がホールに響き渡りました。制作過程も楽しめる、今まで見た人形劇とは一味違う構成に終始釘付けでした。二つ目の演目は「さんびきのこぶた」です。三番目のこぶたがオオカミに食べられないようにあれこれ知恵を絞り、逆にオオカミを食べてしまうというお話でした。その様子をドキドキしながら鑑賞し、予想外の結末に驚きの表情の子どもたち。工夫された舞台装置や効果音、巧みな演出に引き込まれ、お話の世界を存分に楽しむことができました。

マラソン

十二月に入り、吐く息が白くなる頃、子どもたちが楽しみにしていたマラソンが始まりました。クラスごとに準備体操やストレッチをしっかり行ってから、軽快な音楽とともにいざスタート！　年少組はトラックの内側、年中組はトラックの外側、年長組はさらに外側をそれぞれのペースで走ることを目標に取り組んでいます。年少児は初めてのマラソンですが、年中長児に憧れ、準備体操の掛け声を「1・2・3・4」と真似て大きな声で言い、元気に腕を振って走っています。満三歳児ことり組はまだマラソンには参加しませんが、お兄さんお姉さんたちを側で応援したり、外遊びの時に真似て走ったりと、可愛い姿も見られます。寒がりながら園庭に出てくる子どもたちですが、マラソンが終わる頃には「体がぽかぽかしてきた～」と、すっきりした表情になっていました。

当番活動の引継ぎ

年長組の卒園が近づいてきた頃、年長児が年中児に〝当番活動の引き継ぎ〟を行いました。年長組になると、クラス活動とは別に幼稚園全体に関わる仕事をします。その活動のことを当番活動といい、毎年、年長組から年中組へと引き継がれている大事な活動です。

当番活動には「靴箱掃除」「プーさん並べ」「園庭のおもちゃ出し」「倉庫の掃き掃除」の四つがあります。それらがどのような仕事なのか興味津々の年中児は、真剣な表情で話を聞き、「そんなことを年長さんはしてくれてたんだ」「知らなかった」とびっくりしていました。仕事内容を知った後は、年長児と数日間一緒に当番活動を行い、道具の置き場所や物の出し方、並べ方などを教えてもらい、理解を深めていきました。年中組は引き継ぎを経験し、もうすぐ年長組になるんだと気が引き締まる思いがいっぱいで、「年長組でがんばるぞ！」とやる気にみなぎった顔つきで、進級する四月を心待ちにしていました。

つぶやき Pick up　すくすく大きくなあれ

園庭での砂場遊びが大流行し、いろいろなクラスが時間差で毎日のようにせっせと穴を掘っていました。年少組では「みんなで入れるお風呂を作ろう」と声をかけ合い、クラス全員が入れるほどの大きな穴を目指して、楽しみながら力を合わせてどんどん広げていきました。

また年中組では「地面の反対側はブラジルなんだって。みんなでブラジル旅行に行こう」と本気で地球の裏側を目指し、夢中で深く掘り進めていました。さらに満三歳児クラスでは、砂場を口の中に見立て、自分たちがミュータンス菌になりきり「口の中を虫歯だらけにしてやるぞ」と言いながら楽しそうに削っていました。一ヶ月ほど続いた穴掘りでしたが、目的がそれぞれ違っていたことが分かったとき、担任たちは顔を見合わせ、子どもたちの発想の豊かさと一致団結する姿に成長を嬉しく感じながら、思わず笑い合いました。

修学旅行　沖縄へ

二月十一日～十四日

中学受験を終えた六年生が沖縄へ修学旅行に行きました。

初日、「ひめゆり平和祈念資料館」と「平和祈念公園」を見学。亡くなった方々への追悼の気持ちを捧げ、また、静かに平和を祈りました。二日目は「もとぶ元気村」での海洋体験プログラム。海の生き物との触れ合いや、サバニ体験などを通して沖縄の美しい海を満喫しました。三日目は「海洋博公園」で沖縄の海や自然、文化を体感。鮮やかな植物や果樹を鑑賞し、昼食後「美ら海水族館」へ。最終日はまず「おきなわワールド」を訪れました。「玉泉洞」は別世界のようで、自然の神秘に心打たれました。エイサーショーを楽しんだ後、首里城公園を散策しました。

この四日間、沖縄の自然や文化を五感で感じることができました。仲間と過ごしたかけがえのない思い出となりました。

十歳を祝う会

四年生は、一月二十八日に「十歳を祝う会」を行いました。自らの志を言葉にする「決意文」を発表し、「自分自慢」で個性を発揮することで、これまでの歩みを振り返り、自己の成長を再確認する貴重な機会となりました。

仲間と声を重ねた合唱では、互いを認め合う心の調和が会場を包みました。十歳という人生の節目を迎え、感謝を力に変えて未来へ邁進する、逞しい姿が見られた一日でした。

すばらしい先輩たち

河野　真之介
第六十二期生
愛媛大学医学部
医学科一年

河野　成之介
第六十九期生
灘中学校一年

在学当時を振り返りますと、林間学校やスキー合宿、修学旅行など多くの宿泊行事を通じて、仲間と寝食を共にし、衝突しながらも理解を深めた経験は、現在の私の人格形成に大きな影響を与えています。また、算国理における習熟度別カリキュラムなどの充実した学習環境により、同級生のみならず上級生・下級生とも切磋琢磨する姿勢が培われ、また中学受験にどのように取り組めば良いのかを自然に習得することができました。

小学校卒業後は洛南高等学校附属中学校、洛南高等学校を経て、現在は愛媛大学医学部医学科に在籍し、学業とともに腫瘍形成や免疫と深く関わるＭｅｎｉｎについての研究に取り組んでいます。

少人数制だからこそ得られる多くの体験を大切にし、在校生の皆さんが広い視野と確かな志を持って歩まれることを、心より願っています。

（河野真之介）

林間学校で学年を超えて仲間と触れ合ったこと、習熟度別授業で金シールをもらうためにひたすらがんばったこと、六年生まで習字クラブを続け、優待生になれたことなど、良い思い出をたくさん作ることができました。

中学受験では第一志望の灘中学校に合格しました。灘中学校では自由な校風のもとマイペースで学業に打ち込みながら、硬式テニス部と物理研究部に所属して部活動にも精力的に取り組んでいます。自分のやりたいことを納得のいくまでとことん深めていけるのが灘中学校の良いところで、毎日が本当に充実しています。受験勉強はつらい部分もあるかもしれませんが、友達と支えあいながら地道に努力を続ければ、きっと良い結果がついてきます。みなさんが充実した学校生活を送られることをお祈りしています。

（河野成之介）

学習発表会Ⅱ（展示の部）

二月二十一日

今年度最後の授業参観とあわせて、「学習発表会Ⅱ（展示発表の部）」を開催しました。

図工科の授業で制作した平面作品と立体作品の展示を行い、習字クラブ作品展では、久米翠娥先生の指導を受けた子どもたちのお稽古の成果を展示しました。

完成した作品をご家族の方と一緒に鑑賞し、生き生きとした表情で話す子どもたちの姿が印象的でした。

インスタグラムスタート!

学校の「今」をより身近に感じていただけるよう、昨年九月より公式インスタグラムをスタートしました。授業に真剣に打ち込む表情や休み時間の何気ない笑顔など、日々の生活を現場目線の細やかな視点で発信しています。行事だけではない、子どもたちのリアルな成長の様子をぜひご覧ください。

私立中学入試報告

一月十七日、近畿圏の私立中学入試が始まりました。六年生は限られた時間の中でもよく努力して学び、困難な入試を見事に乗り越えました。中学校の合格を手にした子どもたちは、安堵の表情を浮かべながら登校しました。

令和7年度中学入試 合格・進学者数（男子3名、女子4名）

	合格者数	進学者数		合格者数	進学者数
愛光	1	0	四天王寺	1	1
大阪桐蔭	1	0	常翔学園	1	1
岡山	1	0	親和	1	1
海陽	1	0	清風	1	1
片山学園	1	0	高槻	2	0
甲南女子	2	1	帝塚山	1	0
神戸海星女子学院	1	0	北嶺	1	0
甲陽学院	1	1	武庫川女子大附属	2	1

秋の校外学習

高校一年　十一月二十八日

秋の校外学習は、京都の宇治に行きました。宇治は、京都の観光地の一つで、紅葉の時期と重なる絶好の観光シーズンでもあり、多数の観光客で大混雑する中での校外学習になるのではと心配していました。しかし、海外からの観光客も多くなく、生徒たちが自由に宇治の観光名所を巡ることができたのは、大変幸運でした。

当日は、インフルエンザ等により四名の欠席がありましたが、その他の生徒は全員元気に、九時三十分に京阪宇治駅前に集合しました。その後、宇治橋を渡り、世界文化遺産である平等院の表参道を通り正門に向かいました。入場手続きを済ませ、生徒全員が平等院の庭園に入った後、鳳凰堂を囲む形で美しく水をたたえている池（阿字池）のほとりで、鳳凰堂をバックに全体写真の撮影を行いました。全体写真の撮影終了後、生徒たちは班に分かれ、それぞれ庭園内を散策しました。その後、各班の計画に従い宇治周辺を観光しました。

平等院のすぐ近くには宇治川があり、宇治川東岸の朝日山の山裾には、菟道稚郎子（うじのわきいらつこ）、応神天皇、仁徳天皇を祀る宇治上神社があり、本殿は日本最古の神社建築です。さらに、源氏物語の魅力を様々な映像で紹介している宇治市源氏物語ミュージアムも歩いてすぐのところにあり、あちこちと見学する中で日本の歴史を堪能できたことは、生徒たちにとって、とても貴重な経験になりました。

宇治といえば宇治茶が有名です。通りのあちこちから、よいお茶の香りが漂ってきます。素晴らしい秋日和の青空のもと、生徒たちは抹茶を使ったお菓子なども楽しみながら、長い歴史を持つ宇治の風物を満喫していました。

班行動で散策を終えた生徒たちは、午後三時前に京阪宇治駅前に戻り点呼を受け、抹茶を使ったスイーツなどのお土産を手にしながら帰路につきました。京都市内観光とはひと味違った、歴史と文化を堪能した一日でした。

秋の校外学習

高校二年　十一月二十八日

高校二年生は、秋季校外学習として大阪の千日前にあるラウンドワンを訪れました。この行事は、学年の親睦を深めるとともに、体を動かすことの楽しさを実感することを目的として実施しました。最終学年に向かう前の一区切りとして、日常の学校生活とは異なる環境で仲間と時間を共有する貴重な機会となりました。

午前中は、ボウリングを二ゲーム行いました。朝の挨拶の後、学年主任が生徒全員の歓声を浴びながら始球式を行いました。生徒全員のモチベーションが底上げされ、生き生きと投球する姿を見ることができました。

各レーンでは自然と声援が起こり、ストライクやスペアが出るたびに大きな歓声が上がるなど、会場全体が熱気に包まれました。普段は控えめな生徒が活躍する場面も見られ、その姿をきっかけに周囲が盛り上がるなど互いを認め合う温かな雰囲気が感じられました。

続いてスポッチャでの活動では、ローラースケートをはじめとするさまざまな種目に取り組みました。友人と手を取り合い、みんなで楽しもうとする姿が見られ、ローラースケート場が生徒の笑顔や楽しそうな声でいっぱいになっていました。運動が得意な生徒もそうでない生徒も、それぞれが自分のペースで体を動かし、笑顔で活動する様子が見られました。また、活動中には普段あまり関わりのない生徒同士が声を掛け合い、協力する姿も多く見られました。順番を譲ったり、初めて挑戦する仲間を励ましたりする様子からは、互いを気遣う気持ちが育っていることが感じられました。体を動かす中で自然と会話が生まれ、笑顔が広がっていく様子は、学年全体の雰囲気をより明るくするものでした。

全体を通して、生徒たちは公共の場でのマナーを意識して行動していました。周りを見て動く姿や節度ある振る舞いからは、高校二年生としての成長もうかがえました。今回の校外学習で深まったつながりを、今後の学校生活や最終学年へと向かう日々の支えとして生かしてくれることを期待しています。

わくわくステージ

中学　十一月二十八日

兵庫県立尼崎少年創造劇場ピッコロシアターにおいて、「わくわくステージ～タラレバ幽霊とタカラの山～」を鑑賞しました。中学生の三学年が参加し、会場は開演前から期待に満ちた雰囲気に包まれていました。舞台では歌唱の場面や言葉遊びを取り入れたやり取りがテンポよく展開され、俳優のみなさんの高い歌唱力や表現力に、生徒たちは驚きながら舞台に引き込まれていました。生演奏のピアノをはじめ、音響や照明、映像が効果的に組み合わさり、メトロノームのリズムが声や音楽へと変化していく演出は、五感で楽しめる印象的なものでした。鑑賞後には、演出や美術、衣装、照明、音響、舞台監督など、舞台を支えるスタッフの役割について説明があり、俳優だけでなく多くの人の協力によって舞台が成り立っていることを学びました。生徒からは「とても楽しかった」「裏方の仕事を知ることができた」といった感想が聞かれ、演劇の魅力を多面的に感じる貴重な学びの機会となりました。

定期演奏会
十二月十六日

尼崎総合文化センターあましんアルカイックホールにおいて、本校吹奏楽部による「第十九回定期演奏会」を開催しました。

開催に先立ち、発行した整理券は完売。部員たちのSNSで宣伝投稿をする毎日の努力が功を奏しました。当日は多くの方にご来場いただき、幕を開けることができました。第一部「クラシックステージ」では、吹奏楽の重厚な響きがホールを包み込みました。なかでも特筆すべきは、日本を代表するトランペット奏者、菊本和昭氏をゲストにお迎えしたステージです。楽曲『エル・シド』、そして『トランペットのための頌歌』での菊本氏の音色は、力強くも繊細で、部員にとっても、客席の皆様にとっても言葉を失うほど贅沢な時間となりました。合わせの練習で本校にお越しいただいた際もプロの魂を間近で感じ、質問コーナーでは生徒たちからの質問が止まることはありませんでした。練習から本番を通して共に音楽を紡いだ経験は、生徒たちの大きな財産となり今後の活動の糧になるでしょう。

第二部「ポップスステージ」では一転し、KGB（甲子園学院ブラス）劇場「ハルとチハルの神隠し」を上演いたしました。ジブリの名曲に乗せて繰り広げられる劇は、日頃の練習の成果に加え、工夫を凝らした手作りの衣装など部員の個性が光るステージとなりました。サプライズで菊本氏が登場すると、会場から大きな歓声があがりました。

最後に三年生の引退セレモニーを行いました。舞台転換中には三年間の思い出の写真がスライドショーで流れ、終わると三年生が舞台中央に一列で並び、『糸』を合唱。部長から苦楽を共にしてきた仲間、支えてくれた保護者、教員への感謝の言葉を述べた後、一人ひとり呼名され、晴れやかな顔で後輩に見守られながら吹奏楽部を引退していきました。旅立つ姿は非常に感慨深く、会場は温かな涙と拍手に包まれました。一・二年生はバックで演奏をしながら、三年生が築き上げた伝統の重みを改めて胸に刻み、受け継ぐ覚悟で三年生を見送りました。

中学 消費生活出前講座
二月十七日

中学生を対象に、消費生活出前授業を行いました。ファイナンシャルプランナーの方を講師に迎え、生活に身近なお金の使い方や、キャッシュレス社会における注意点について学びました。

授業では、キャッシュレス決済が急速に普及している現状について説明があり、実際に電子マネーやQRコード決済などをすでに利用している生徒も多く、中学生にとっても身近な存在であることが示されました。

便利さだけに目を向けるのではなく、正しい知識を身に付ける必要性について学びました。また、ニーズとウォンツの違いについても取り上げられ、本当に必要な支出と、そうでない支出を区別することの大切さを学びました。さらに、生涯で必要となるお金についての説明では、進学や就職、その後の生活までを見通した資金計画の重要性が示されました。

今回の講座から、これまでキャリア教育の時間に学んできたさまざまな職業や働き方、自分の夢や目標、将来どのような生活を送りたいかといった内容と関連付けながら考えを深めることができました。特に、オンラインゲームでの課金や友だち同士のお金の貸し借りなど、中学生が巻き込まれやすい問題については、自分の生活と照らし合わせながら真剣に考える様子が見られました。主体的に考え、正しく判断する力を養う有意義な学習の機会となりました。

新生徒会発足

十二月二十四日に新生徒会役員候補の信任投票を実施しました。信任投票は各クラスの委員長がクラスを代表して投票します。投票の結果、候補者八名全員が信任を得て、これにより新生徒会が発足しました。投票結果はエントランスに掲示し、三学期の始業式の日に全校生徒へ周知しました。充実した生徒会活動により、活気のある学校になることを期待します。

令和八年度新役員

会長	三葉　礼	（高二）
副会長	奥田　和香	（高二）
	姫田　諒永	（高二）
記録	菱谷　芽生	（高一）
	清水　美卯	（中二）
会計	京谷　采佳	（高一）
	難波　ひいな	（中三）
監査	中田　美空	（高一）

新会長の三葉さんは「先輩方が作ってくれた明るい雰囲気の学校を大切に引き継ぎます。そして体育大会、文化祭などの学校行事を生徒主体となって運営できるように生徒会一丸となって取り組み、楽しい学校、協力し合える学校を作っていきたいと思います。すぐに先輩方のような活躍はできないかもしれませんが、精一杯頑張るので応援、協力よろしくお願いします。」との決意を語ってくれました。

第78期生 大学入試合格状況　（1月19日現在）

甲子園大学	2名	大阪芸術大学	1名
龍谷大学	3名	大阪体育大学	1名
神戸学院大学	4名	鎌倉女子大学	1名
甲南女子大学	3名	神奈川大学	1名
神戸女学院大学	2名	福井工業大学	1名
大手前大学	2名	別府大学	1名
姫路大学	3名	関西学院短期大学	5名
関西外国語大学	1名	大手前短期大学	2名
京都外国語大学	1名	神戸教育短期大学	2名
大阪音楽大学	2名		

令和七年度 学内成人式

一月九日、学内成人式を開催しました。第一部の記念式典は、理事長・学院長久米知子先生のご臨席のもと、華やかに設えられた会議室で行いました。早坂学長からの式辞に応えて、Ⅱ回生の代表学生が誓いの言葉を述べると、学生たちは成人としての立場と責任に身を引き締め熱心に聴き入っていました。続いて学院からの記念品贈呈が行われました。

第二部では、教職員からのお祝いのメッセージが流れる中、焼き菓子やアイスクリーム等のスイーツを美味しくいただきました。後半は謎解きゲームで、学内を巡りながらグループごとに謎を考え合ったり、答えを見つけ大喜びしながら楽しみました。恩師や友達と交流し、心に残る思い出になりました。

卒業研究発表会

一月三十日、令和七年度「卒業研究発表会」を行いました。

グローバルスタディⅡ、グローバルスタディⅢと積み上げてきた研究等の成果発表です。本年度は論文発表が八題、実技発表（演奏発表）一題の計九題でした。論文発表では、服のアップサイクル、コメ不足、SNS時代の情報発信といった今日的テーマや酢豚、ハンバーグといった料理に着目した研究等多岐にわたる内容でした。実技発表はピアノ連弾で、指導教員とまさに二人三脚の発表でした。

グローバルスタディⅡ

一月二十一日、グローバルスタディⅡの履修者による課題探究成果発表会を行いました。自らの興味・関心のある課題を探究した成果の発表とあって、音楽と映像、アニメーションの音と映像、グローバル化といった情報技術が及ぼす事象、ネイル、キャラクターについて等、多岐にわたるテーマに取り組んでいました。

♪ミュージカル発表会♪

今年度も毎年恒例となっているミュージカル発表会を行いました。これは、「保育総合表現」の授業の一環で、油井先生と種子田先生お二人のご指導のもとで構成された発表でした。今回はⅠ・Ⅱ回生同時開講となり、初めて学年を超えた作品作りになりました。発表作品は「サウンドオブミュージック」で、誰もが一度は歌ったことがある名曲ぞろいです。歌の練習に始まり、配役オーディション、セリフの読み合わせ、振付など少しずつ積み重ねてきました。

発表会前日そして当日も緊張した面持ちで、ギリギリまでリハーサルをしていましたが、皆が役になり切って演技していました。学生一人ひとりの個性と役柄を合わせ、本学ならではのミュージカル作品となりました。

短期大学六十年の歴史を振り返る その③

平成十六年から改正学校教育法が施行され、大学・短期大学などの認証評価制度が始まりました。

この制度により全ての大学・短期大学などが、文部科学大臣により認証された認証評価機構の評価を七年に一度受け、その判定結果を公表することになりました。

その目的としては、教育の質の保証と、向上・充実に資し、結果の公表により社会の理解と支持を得ることとされます。

本学では、平成二十二年度に認証評価機関である財団法人短期大学基準協会からの第三者評価を受けることを決定し、平成二十二年九月に訪問調査を受けました。受審の結果、短期大学評価基準を満たしているとして、平成二十三年三月「適格」と認定されました。

特に優れた事項として、建学の精神・校訓が明確で、その精神に基づく「特別演習」の取り組み、教育施設の充実等、多くの点があげられました。

（「甲子園学院七十年史」より）

地域とつながる学び
―子ども食堂での実践から―

キャリアデザイン演習を履修する生活環境学科Ⅰ回生が、上甲子園公民館で開かれている「すまいるあっぷ子ども食堂」を訪問しました。同食堂は、地域の子どもを中心に、誰もが気軽に集い、夕食をともにする場です。本授業では、十月の見学訪問を「現状把握の機会」、十二月の再訪問を「企画・準備を経た実践の機会」として位置づけました。十月は主催の方々や子どもたちに温かく迎えていただき、場の雰囲気や関わりの仕方を体感できました。

十二月には学生自身が催しを企画し、準備と練習を重ね再訪問しました。当日は約五十名の参加者があり、ハンドベル演奏やクイズを行いました。緊張していた学生たちでしたが、色紙の贈呈や「次はいつ来てくれるの？」の声に自然と笑顔になり地域の方々との交流を通じて学びが社会とつながることを実感する貴重な体験とすることができました。

特別演習
「ワークライフ・バランス」
―先輩からのメッセージ―

十二月十二日、特別演習において、卒業生四名に来学いただき、「卒業後の仕事と生活」というテーマで講話をいただきました。卒業生の皆さんは、職場での仕事内容や学生時代の就職活動、仕事と生活を両立させる秘訣等、自らの体験を織り混ぜて学生の役に立つように語られました。学生からは、「現実として将来のことを考えていなかったが、イメージしやすくなり、将来のことを考え、自分を見つめ直すよいきっかけになりました」、「自分を知り、自分に合った職場を選ぼうと思います」等の感想が寄せられました。

釜阪教授 NHK番組に出演

十二月五日に放送されたNHKの人気番組「チコちゃんに叱られる！」に、本学栄養学部の釜阪寛教授が出演しました。

番組では、「なんで大人になると苦いものが好きになるの？」という問いに対し、チコちゃんが「命の危険がないと分かったから～」と答え、その理由について教授が解説しました。

人類は、狩猟採集の時代から、腐ったものは酸っぱく、毒のあるものは苦いといった経験を通して、危険な食べ物を避ける知恵を身につけてきました。そのため、現代の私たちも、子どものうちは本能的に苦いものをおいしいと感じにくいとされています。しかし成長するにつれて、苦くても体に害のない食品を口にする経験を重ねることで、次第に苦味を受け入れ、さらには「おいしい」と感じるようになっていくといいます。こうした人間の味覚の変化について、分かりやすく説明しました。

南部農林高等学校が来学

一月十四日、沖縄県立南部農林高等学校食品加工科の二年生三十二名、引率の先生二名、計三十四名の皆さんが来学されました。今年で三回目の研修訪問になります。

今回は栄養学部の浅見淳之特任教授が、『令和の米騒動をふまえて』という演題で授業を行いました。米の生産と流通の歴史や日本人の消費量の変化、それに伴う国の生産調整について知ることで、令和の米騒動がどうして起きたのかについて学んでもらいました。身近なニュースについて、より深く理解するきっかけになったのではないかと思います。

ミニオープンキャンパス

十二月十三日、ミニオープンキャンパスを開催しました。当日は多くの高校生や保護者の方々に参加いただき、中には遠方から足を運んでくださった方もいらっしゃいました。

体験イベントでは、クラフトコーラを作りました。参加者からは「こんなに本格的に作れるとは思わなかった！」「楽しく学べて、しかも美味しかった！」などの声が寄せられました。最後は、本学教員が審査するクラフトコーラコンテストが行われ、会場は大いに盛り上がりました。同日には個別相談も実施され、高校生や保護者の方々に大学の学びや雰囲気を直に感じていただく良い機会となりました。

マーケティングと心理学 特別講義

「マーケティングと心理学」の授業にて、株式会社ジェイアール西日本伊勢丹の上田浩久氏による特別講義が行われました。伊勢丹新宿店やルクア大阪等の現場でのご経験を踏まえ、百貨店ファッション市場の変遷とマーケティング戦略の進化についてわかりやすく講義していただきました。個人の嗜好が多様化し細分化が進む現代では、従来よりも微細なクラスターで消費者を捉えることが不可欠であるという視点が示され、ルクアイーレの具体的な戦略を例に挙げて詳細な説明がありました。学生たちがルクアイーレおよび阪急うめだ本店で事前に実施したフィールドワークの分析結果を踏まえ、上田先生より店舗づくりや商品ラインナップに関する多角的な視点からのフィードバックをいただきました。講義ではさらに、将来を見据えた商品展開や新しいコンテンツへのアプローチにも触れられ、学生たちも時代の変化を感じ取り挑戦し続けることの重要性を実感できたことと思います。

フードスペシャリスト 認定試験で優秀賞受賞

十二月に実施されたフードスペシャリスト認定試験において、栄養学部三回生の岸紀子さんが、全国二、三〇八名の受験者の中で第五位という優秀な成績を収めました。さらに、上位資格である専門フードスペシャリスト（食品開発）においても、全国四五五名中第七位となり、その成績が高く評価され、日本フードスペシャリスト協会より優秀賞が授与されました。

専門フードスペシャリスト（食品開発）は、今回の合格率が二八・六％という難関資格です。岸さんは両試験において上位入賞を果たし、日頃の学修成果を示しました。

岸さんは「資格を取得できたのは、大学のe-learningを活用したことに加え、試験直前に家族が協力してくれたことが大きく、大変感謝しています。今後は、さらに他の資格にも挑戦し、食の分野で社会に貢献できるよう努力していきたい」と語っています。

マリンデイ西宮での実習 一月二十三日・二月九日

通所介護施設マリンデイ西宮で実習を行いました。公認心理師の受験資格を得るため必要な授業です。マリンデイ西宮は要介護認定を受けた方々を対象とするデイサービス施設です。特に食事と音楽に力を入れており、見た目も美しいコース料理の献立を企画しているのは本学栄養学部OGの福原由加里さん（34期）です。

ここで音楽療法士の吉田百合子先生が実施する音楽療法に実習として参加しました。利用者は年齢に合わせた童謡や唱歌、流行歌などを先生のリードで一緒に歌います。曲によっては歌いながら身振り手振りをつけていき、普段動かさない部分を動かすよう工夫されています。利用者とやり取りしながら、参加の意欲を引き出す吉田先生の技術を目の当たりにできる、貴重な機会となりました。

学院生の活躍

（○数字は開催月）

中学校バレーボール部

①令和七年度西宮市中学校バレーボール男女選抜大会　優勝

①令和七年度阪神中学校バレーボール男女選抜大会　優勝

①令和七年度兵庫県中学校バレーボール男女優勝大会　ベスト8

吹奏楽部

⑫第五十三回兵庫県アンサンブルコンテスト第三十五回西阪神地区大会高等学校部門
金管五重奏　金賞

①第五十三回兵庫県アンサンブルコンテスト高等学校部門
金管五重奏　金賞

宝塚市長の表敬訪問

十一月二十六日、令和七年の四月に新しく第十代宝塚市長に就任した、森臨太郎市長が本学を訪問されました。

宝塚市と本学とは、平成二十五年に包括連携協定を締結し、相互に協力関係を築き、地域社会の発展及び人材育成に寄与していくことを目的として、現在も連携協定を継続更新中です。

尾﨑秀夫学長と本学の特色や両学部の現状などについて終始和やかに懇談が行われました。特に連携協定に関して栄養学部での取り組みである宝塚市の食育イベントでの協力や学生考案の「宝塚牛カレー」が宝塚市のふるさと納税返礼品になっていることなどが話題となりました。また、心理学部においては、子育て支援事業で「子育て講座」「思春期講座」の実施に関して、子育て中の保護者の不安解消に協力いただいたと労いの言葉をいただきました。さらに、森市長から本学の学生たちや教職員へ「甲子園大学へのメッセージ」として、今後も学生たちに期待する内容や、教職員とともに未来へはばたける環境を作っていこうという励ましの言葉をいただきました。その内容は動画として収録し、大学ホームページで配信しておりますので、ご覧ください。

山下萌寧（中三）さん マッチプレー選手権大会優勝

十一月二十五日から二十八日の期間、カヌチャリゾートカヌチャゴルフコース（沖縄県名護市）で開催された「第九回全国中学校・高等学校選抜ゴルフマッチプレー選手権大会女子の部」において、本校中学校三年の山下萌寧さんが優勝しました。

山下さんは、八月の全国中学校チャレンジマッチプレー選手権大会で優勝してこの大会の出場権を得ました。今後のさらなる活躍が楽しみです。

私学総連合美術展

一月三十日から二月一日まで、兵庫県私学会館で兵庫県私学総連合会主催の第六十四回私学総連合美術展が開催されました。

本学院からは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校から十六名の力作を出品しました。

幼稚園　年少組　大政　花音
　　年中組　松永　侑茉
　　年長組　後藤　麻友

小学校　一年　髙木　紅里
　　二年　伊藤　直裕
　　三年　松本　一希
　　四年　岩山　仁
　　五年　山田　晃太郎
　　六年　直島　早春

中学校　二年　小松　春陽
　　二年　杉本　陽音
　　三年　木和田　なつめ
　　三年　白川　琴葉

高等学校　一年　西田　茉央
　　二年　青谷　実咲
　　二年　奥田　和香

「10歳のわたし」
岩山　仁

「月と地球」
髙木　紅里

「みゃくみゃくとしゃしんとったよ」
後藤　麻友

追悼式記念講演講師プロフィール

くすのきしげのり。児童文学作家。徳島県鳴門市在住。絵本『おこだでませんように』『メガネをかけたら』（ともに小学館）が、青少年読書感想文全国コンクール課題図書となる。『メロディ』『ええところ』『ともだちやもんな、ぼくら』等、小学校（２０２４年度改訂）・中学校（２０２５年度改訂）の教科書において、小学校一年生～中学校三年生の全学年の教科書に作品が採用・掲載される。また、『あなたの一日が世界を変える』（ＰＨＰ研究所）『Life』（瑞雲舎）『わたしがはやくねるわけはね……』（小学館）等二〇〇作品を超える著作は海外でも広く読まれている。

あとがき

◆卒業・進級おめでとうございます。新しい進路でいいスタートをきってください。

◆今年度の最終号です。概ね昨年の十一月下旬以降の教育活動を掲載しました。

園の輪　そののわ No.192

令和８年３月17日発行
学校法人　甲子園学院
〒663-8107
西宮市瓦林町4番25号
TEL. 0798(67)2100
FAX. 0798(67)5488
http://www.koshien.ac.jp/honbu/